



頂点を目指して——各チームが富士攻略に挑む

2026 年 FIA 世界耐久選手権（FIA WEC）第 6 戦の舞台は、今週末（9 月 25～27 日）にアジアへと移る。舞台となるのは「6 Hours of Fuji（富士 6 時間）」だ。シリーズランキングの頂点では複数陣営が拮抗しており、日本最高峰・富士山の麓で繰り広げられる決戦は、まさに見逃せない一戦となる。

もともとは全面バンクの高速オーバルとして構想され、その後、現在の全長 4.563km、16 コーナーのレイアウトへと生まれ変わった富士スピードウェイ。ドライバー、ファンの双方から愛されるこのサーキットは、2012 年の FIA WEC 発足以来、これまで 12 回シリーズを迎えており、開催回数では FIA WEC 史上 4 番目に多いサーキットとなっている。1982 年から 1988 年には、FIA 世界スポーツカー選手権も開催された。

1 週の距離はシリーズ中で 2 番目に短い一方、1.475km に及ぶメインストレートはモータースポーツ界でも屈指の長さを誇り、ドライバーは時速 330km を超える驚異的な最高速度に達する。さらに、その予測の難しさを象徴するのが昨年のレースだ。2025 年大会は、各クラスの優勝者がいずれもグリッド前 3 列からスタートしなかった FIA WEC 史上初のレースとなった。また、2024 年、2025 年ともにポールポジションからスタートしたドライバーは、いずれも表彰台に上がることができなかった。

激しい頂上決戦、タイトル争いはさらにヒートアップ

シーズン 5 戦を終え、最高峰ハイパーカークラスのタイトル争いは依然として僅差のままだ。前戦オースティンではトヨタと BMW が大量得点を逃す一方、ディフェンディングチャンピオ

ンのフェラーリがテキサスで勝利を飾ったことで、世界チャンピオンの座をめぐる 3 陣営による興味深い争いが形成されつつある。

[サーキット・オブ・ジ・アメリカズで、レース終了わずか 10 分前に油圧系のトラブルによって勝利を奪われた](#)トヨタは、ホームでの一戦で巻き返しを期す。しかも富士は、過去四半世紀にわたってトヨタが圧倒的な強さを見せてきたサーキットだ。

日本の自動車メーカーであるトヨタは、富士でこれまで 9 勝を挙げており、実に 75% という驚異的な勝率を誇る。ただし、直近の勝利は 2023 年までさかのぼる。

さらにトヨタにとって心強いのは、同サーキットに投入された新型プロトタイプが、いずれも初レースで勝利を収めていることだ。TS030 Hybrid は 2012 年、TS040 Hybrid は 2014 年、TS050 Hybrid は 2016 年、そして GR010 Hybrid は 2022 年に、それぞれ富士で初勝利を挙げている。今季、初参戦シーズンながらイモラとル・マンで早くも頂点に立った TR010 Hybrid も、この記録を継続することを狙う。



富士のハイパーカー予選ラップレコードを保持しているのは小林可梦偉。2019 年には #8 トヨタがレースの全周回をリードするという歴史的な記録を打ち立てた。

この 2019 年大会でチェッカーフラッグを受けたセバスチャン・ブエミは、富士で通算 4 勝を挙げている現役唯一のドライバーだ。ブエミの 5 人のチームメイトのうち 4 人も富士で総合優勝を経験している。また、ニック・デ・フリースは 2019 年、LMP2 クラスで日本における FIA WEC 初勝利を達成。オランダ人ドライバーは過去 2 大会でもレースをリードしている。

デ・フリースは小林可梦偉、マイク・コンウェイとともに、BMW のロビン・フラインス、レネ・ラストと並んでドライバーズランキング首位で週末を迎える。一方、マニュファクチャラーズランキングでは、トヨタが BMW に対して 9 ポイントのリードを保っている。

M Hybrid V8 は、今季ベルギーとブラジルで勝利を挙げたものの、COTA では速さに苦しんだ。しかし、BMW にとって富士は好相性の舞台だ。2024 年の初参戦では予選 3 番手を獲得し、決勝では 2 位でフィニッシュ。この結果は、同メーカーにとって選手権最高峰クラスでの初表彰台となった。

サンパウロで2位、そしてテキサスで勝利を挙げたディフェンディングチャンピオンのフェラーリも、再びタイトル争いに加わってきた。しかし 499P Hypercar は、これまで日本で3度のレースを戦いながら、いまだ表彰台に届いていない。現在の開催地の中で、499P がトップ3フィニッシュを記録していないのは富士だけとなっている。

日本でのハイパーポールでは、2024 年以来キャデラックが主役となっている。ただし、JOTA が運営する同陣営は、過去2度のポールポジションを獲得したアレックス・リンを欠いて今大会に臨む。#12 のウィル・スティーブンスは10年前、富士でLMP2クラスにおける自身初のシリーズ勝利を記録。また、昨年のレースではハイパーカーのファステストラップを記録している。

そして、FIA WEC の記念すべき第100戦を制したのがアルピーヌだった。同チームは、富士で過去2度のハイパーカー参戦時に獲得していた表彰台に、さらに勝利を加えるべく大胆な戦略に打って出た。このサーキットでアルピーヌが記録したハイパーカーでの表彰台回数は、トヨタを除く現役メーカーの中では最多となっている。

フランス勢は、COTA で行われた前戦からわずか2週間あまりで今季初の表彰台に復帰。A424 は2026年のグリッドに並ぶハイパーカーの中で、過去に富士6時間を制した経験を持つ唯一のマシンでもある。

アストンマーティンのValkyrie は昨年9月、日本で初のトップ5フィニッシュを達成。その後さらに2度、それを上回る結果を記録しており、伝統ある英国メーカーは着実に進化を続けている。一方、12カ月前に2位となったブジョーにとっては、それがこれまでの選手権における最高成績となっている。

#94 9X8 をドライブする2013年世界チャンピオン、ロイック・デュバルは、富士での総合最速レースラップ記録保持者。日曜日には、FIA WEC 史上9人目となる通算80戦出場の節目を迎える見込みだ。一方、モータースポーツ界に新たに参入したジェネシスは、[オースティンで記録した自己最高の7位](#)を足掛かりに、さらなる飛躍を目指す。

LMGT3 ではコルベットがフェラーリの追撃をかわす構え

コルベットは、6月のル・マン24時間で最新のクラス優勝を飾って以来、LMGT3クラスの首位を走っている。#33のジョニー・エドガー、ニッキー・キャッツバーグ、ベン・キーティング組は、ランキング首位で富士に乗り込む。

富士は、コルベットのパートナーチームであるTF Sport が過去3度の勝利を挙げているサーキットでもあり、直近の勝利は昨年。また、#34のチャーリー・イーストウッドとサリム・ヨルチにとっても、7年前にチームメイトとして参戦していた際、ここが飛躍のきっかけとなる勝利を挙げた舞台となった。

北アイルランド出身のイーストウッドは 12 カ月前にも再び富士の頂点に立った。ただし、その勝利は#21 VISTA AF Corse Ferrari にペナルティが科された結果、イタリア勢の日本での連勝が阻まれたことによるものだった。

現在、#33 コルベットの最も近いタイトル争いのライバルとなっているのは、アレッシオ・ロベラ、サイモン・マン、フランソワ・エリオ組。一方、姉妹車#54 では、ダビデ・リゴン、フランチェスコ・カステラッチ、トーマス・フローアの 3 人が富士で複数回のクラス優勝を経験しており、ここまでわずか 1 ポイントにとどまる苦しいシーズンからの巻き返しを狙う。

2024 年と同様、フェラーリは現在、LMGT3 で 6 戦連続して表彰台を逃している。この連続未達が最後に途切れたのは、富士で勝利を挙げたときだった。

このほか、今週末の活躍が期待されるのが Team WRT の 2 台の BMW だ。M4 は過去に日本で 2 度参戦し、いずれもトップ 3 フィニッシュを記録している。

メルセデス AMG にも注目が集まる。昨年、ロルカン・ハナフィンが同ブランドにシリーズ初のファステストラップをもたらしたほか、Iron Lynx が運営するマシンは今月初めの COTA でも好調なペースを披露し、2 台そろってトップ 7 フィニッシュを果たしている。

主要スケジュール

走行セッションは 9 月 25 日（金）のフリープラクティスで幕を開ける。

予選およびハイパーポールのトップ 10 シュートアウトは、9 月 26 日（土）14 時 00 分（現地時間／GMT+9）から開始される。6 時間にわたる決勝レースは、9 月 27 日（日）11 時 00 分（現地時間／GMT+9）にスタートする。

「6 Hours of Fuji」の[大会基本情報](#)では、全セッションのタイムテーブルやエントリーリストなどを確認できる。

FIA WEC のすべてを、そして耐久レース最大の戦いのすべてを。FIA 世界耐久選手権の公式ストリーミングプラットフォーム「FIAWEC+」では、伝統のル・マン 24 時間を含む FIA WEC のレースを、いつでも、どこからでも、ライブおよびオンデマンドで視聴できる。

[FIAWEC+で FIA WEC をライブ視聴](#)

